

「自立支援、介護予防又は重度化防止及び介護給付の適正化に関する取組と目標」の自己評価

団体名	三好市
-----	-----

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021～2023年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
いきいき百歳体操を実施する 通いの場活動を展開する。	住民主体の介護予防教室を 推進することで、地域活動を を広げながらフレイル予防 を行う。	58団体	目標	(61)	(62)	65団体	地域の住民が主体となって 「通いの場」で、いきいき百 歳体操を継続して行っていた だいた。また、年1回理学療 法士及び保健師が介入し、フ レイルチェックを行った。 2023年度からは、体成分分析 装置による評価を取り入れ、 介護予防や健康づくりに対す る意欲向上を行った。	○	通いの場による介護予防活動は継 続して行っていた。今後は、 体カテストの測定結果に加え、体 成分分析装置によるデータを蓄積 し、比較検証も行い、効果的な指 導を行えるようにする。
			実績	61団体	62団体	65団体			
認知症サポーター等を養成 する。	地域や職域において認知症 サポーターを養成し、サ ポーターにより、地域の見 守りを強化することで、認 知症のみならず、高齢者と その家族が抱える問題等 に対し、適切な窓口につなぐ 等、気づき役・つなぎ役を 担えるよう図る。	2,747	目標	(2900)	(3100)	3400人	(2021年度) 認知症サポー ター養成講座172人受講 (2022年度) 認知症サポー ター養成講座に加え、ステッ プアップ研修を実施。サポー ター養成講座259人受講。 (2023年度) 認知症サポー ター養成講座262人受講(キャ ラバンメイト1人)	○	引き続き、認知症サポーター及び ステップアップ研修を実施し、地 域で認知症とその家族の方を支 える活動に取り組んでもらえる人材 を育成していく。
			実績	2926人	3185人	3448人			
オレンジ（認知症）カフェ 等を開催する。	認知症の人やその家族が地 域の人や専門家と気軽に 出会う場がない。相互に情 報を共有しお互いを理解し 合う「認知症カフェ」等の 設置を推進していく。	8	目標	(10)	(12)	18回	(2021年度) 毎月のオレンジカ フェに加え、認知症ミニカフェを 10回開催。 (2022年度) 「辻のいろり」をオ レンジカフェの拠点として実施。 各支所単位で10回開催。 (2023年度) 毎月実施のオレンジカ フェに加え、山城地区でも偶数 月に実施。	○	「辻のいろり」をオレンジカフェ の拠点として、毎月実施。いきい きサロン山城でも偶数月に実施。 コロナ禍以降、共催である徳島県 立三好病院との協力が得られにく い状況が続いており、カフェ運営 について協議を行っていく。
			実績	カフェ12回 ミニカフェ10回	カフェ12回 相談会10回	カフェ16回			
認知症の方に対する早期診 断・早期対応のための体制 づくりを実施する。	住み慣れた地域で生活を続 けるためには、認知症の高 齢者等への専門職の早期の 関与等が重要と考えられ る。早期診断・早期対応の ための体制づくりを構築し ていく。	1	目標	(1)	(1)	1回	(2021年度) コロナ禍のため、書 面会議での開催。チームの取り 組み状況や対応、施策につい て分かりやすく報告。 (2022年度) 対面方式で情報を 共有。継続事案が減らないこと などを報告。 (2023年度) 三好病院、秋田病 院、認知症サポート医等に参加 していただき、情報を共有。	○	認知症関連で関与する方は年々増 加。医療や介護サービスに繋がら ない継続ケースは定期的に訪問して いく。地域住民の認知症に関する理 解を広げ、地域での見守り活動や相 談窓口の充実など、認知症の方やそ の家族の孤立を防ぎ支援する体制を 構築している。
			実績	1回	1回	1回			

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021～2023年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
生活支援等サービスを提供するボランティアとなるための研修等を実施する。	今後は地域の介護の担い手不足が深刻化してくる。地域の生活支援ニーズと地域の元気な高齢者の活動をマッチングさせる取組を推進していく。		目標	(6箇所)	(6箇所)	(6箇所)	(2021年度)三好市第2層協議体の活動を支援し、地域の見守りの担い手を養成する三好市生活支援サポーター養成講座を市内6箇所で開催した。 (2022年度)6地区にある第2層協議会と年3回の協議を重ねた。養成講座は募集をかけたが定員に満たず、集約しての開催となった。 (2023年度)第2層協議体と7会協議を実施。養成講座は担い手不足から1回のみ開催。	○	生活支援サポーター養成講座を継続して開催していく。ただ、担い手不足により募集しても参加人数が増えなくなっている。一方、研修卒業生が通所型サービスBのサービス提供者として活躍しているため、少ない人数であっても研修を継続していく。
		6箇所	実績	6箇所	1箇所	1箇所			
住民主体の自主活動として行うサービスBを実施する。	多様な日常生活上の困りごと等に対応するために、地域全体で共通の意識を持ち、地域にあった新たなサービスを創出できるよう支援していく。		目標	(6箇所)	(6箇所)	(6箇所)	(2021年度)2020年度より市内1地区1箇所で通所B(緩和型)が開始され、継続している。 (2022年度)実施団体が増えるよう各種会議で事業説明。 (2023年度)通所型サービスBが4団体、訪問型サービスBが1団体増加。	○	2023年度には新規団体が急増し、各地域でサービスB実施による介護予防活動に取り組んでいただけるようになった。団体ごとにサービス内容や質に差が見られるが、地域の特色を残しながら、サービスの質の向上を目指していく。
		5箇所	実績	6箇所	5箇所	10箇所			
地域ケア会議を開催する。	他職種で検討することにより有効な解決手段等を導き、自立支援に資するケアマネジメントの支援を行うことで重度化防止や自立支援につなげていく。		目標	9回 (地域ケア会議2回、個別地域ケア会議6回、自立支援型ケア会議1回)	9回 (地域ケア会議2回、個別地域ケア会議6回、自立支援型ケア会議1回)	9回 (地域ケア会議2回、個別地域ケア会議6回、自立支援型ケア会議1回)	(2021年度)三好市地域包括ケアシステムの推進の一つとして協議してきた「つながろう三好ネットワーク」を立ち上げ、2021年10月に三好警察署と協定を締結。 (2022年度)地域包括ケアシステム構築方針の中間報告。三好市権利擁護センターの設置について協議。 (2023年度)地域包括ケアシステムの構築や医療と介護予防の一体的実施事業、権利擁護センターについて協議。	○	事例(個別地域ケア会議)の共有と学びを通して充実した会議を開催していく。地域ケア会議で、すべての高齢者の方を含む住民が、孤立することなく地域で自分らしい生活を続けるための地域包括ケアシステムの仕組みづくりを構築していく。
		9回(地域ケア会議2回、自立支援型ケア会議1回、個別地域ケア会議6回)	実績	8回 (地域ケア会議2回、個別地域ケア会議6回、自立支援型ケア会議0回)	6回 (地域ケア会議2回、個別地域ケア会議3回、自立支援型ケア会議1回)	10回 (地域ケア会議2回、個別地域ケア会議7回、自立支援型ケア会議1回)			
自主グループ活動を行っている団体等に対して介護予防についての支援を実施する。(地域介護予防教室、地域いきいき事業等)	自主活動を行っている団体等に介護予防について啓発等を行うことで、介護予防に対する意識を高めて、介護予防につなげていく。		目標	20箇所	21箇所	22箇所	(2021年度)地域の自治会、老人クラブ、婦人会等において、介護予防教室(体操、生活習慣病等)を実施。 (2022年度)前年度と同様。 (2023年度)各種団体(サロン、身体障害者会、老人クラブ、地区住協、福祉団体等)にて介護予防教室(体操、口腔ケア、認知所予防、健康づくり等)を実施。	○	コロナ過が収束し、各種団体が介護予防活動事業を再開。今後も継続的に活動できるよう支援していく。
		10箇所	実績	12箇所	12箇所	30箇所			